

10. 九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)	良く なっている	○	○	○
	やや良く なっている	百貨店（営業担 当）	単価の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動減で低下していた高額品の買上単価が、半期、四半期平均共に回復してきている。また、レジ客数も回復してきた。家具・家電リビング催事の受注も好調であり、呉服宝飾美術の高額商品の動きも活発になってきた。反面、クリアランスセール勢いがなく、紳士・婦人衣料共に苦戦している。
		百貨店（売場担 当）	競争相手の様子	・系列店舗の売上げは前年比91～98%となっている。店舗1階のリニューアル工事がはじまったのが影響している。今月20日までは、衣料品を中心に全般的に悪かった。梅雨明け以降、衣料品を中心に一気に売上が上がってきているが、例年の9割程度と良くない。客単価、1品単価は前年を上回るものが入店客数は前年を割っており、購買率も前年比86%とかなりダウンしている。非食品が3.2%、食品が2.4%ダウンしている。
		スーパー（店 長）	来客数の動き	・消費税増税の影響から食料品は順調に回復し、前年と同じぐらいとなっている。寝具等の回復は遅いが、全体として回復している。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・消費税増税の時点で販売量が少し減っている状況であった。客数の減少はあるが、客の買上単価はほぼ変わらない。
		スーパー（経理 担当）	販売量の動き	・消費税増税の影響をみると、食品はほぼ収まったが、雑貨・衣料は若干回復していない。大きな変動はないが客数が減っている。消費者は買い回りをしている。
		コンビニ（販売 促進担当）	販売量の動き	・今月の売上は、量販店が前年比105.4%、コンビニエンスストアが同比116.6%、ローカルスーパーが同比104.8%となっている。夏休みに入ったこともあって、食パン、菓子パンが伸び、販売数量に大きく貢献した。
		衣料品専門店 （取締役）	お客様の様子	・消費税増税直後の4月は品物の動きにバラつきがあった。7月はセールの月ということで多少物が動いている。
		家電量販店（店 員）	販売量の動き	・消費税増税の影響で4月が落ち込んでいた分、7月の売上は若干上がってきた。
		家電量販店（総 務担当）	お客様の様子	・猛暑到来でエアコン・冷蔵庫の早期取り付けを希望する客が多い。
		家電量販店（広 報・IR担当）	販売量の動き	・天候不順によりエアコンが低迷している。消費税増税の影響もあり、全体としてやや低迷している。
		乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・消費税増税の影響も弱まり、客の動きが良くなり、販売量が増えた。
		その他専門店 〔ガソリンスタ ンド〕（統括）	お客様の様子	・燃料油の小売価格は高止まり感があるが、需要が低下した様子はない。7月1日より高速道路料金の休日割引が50%から30%へ変更となり、他県から訪問の自動車利用顧客減少を心配していたが、販売量にも影響はないようだ。顧客の話から、生活必需品の値上げは家計に響くが、消費を節約するほどでもない様子がかがえる。
		旅行代理店（企 画）	販売量の動き	・国内旅行が好調である反面、海外旅行が不調である。国内旅行は、U S Jを中心とした関西方面が好調である。海外は、円安、燃油の高騰の影響により不振である。特にヨーロッパ方面が不振となっている。
		ゴルフ場（従業 員）	お客様の様子	・今月は公務員等の賞与支給もあり、週末の客が大幅多くなってきている。団体職員も少しずつ回復しているようだ。
	変わらない	商店街（代表 者）	来客数の動き	・ボーナスが支給されたにも関わらず、今月は、消費税増税直後に来街客数、販売量が大幅に減少した4月と同様の動きになっている。
		一般小売店〔青 果〕（店長）	お客様の様子	・消費税増税の影響は徐々に落ち着いているが、増税前の状況に戻っただけで決して油断できない。ギフト商品であるマンゴー、メロンの値段は昨年との8割程度となっており、全体的に厳しい状態である。

百貨店（店舗事業計画部）	来客数の動き	・7月は、梅雨明けの遅れや台風の影響があったが、梅雨明け後は来客数も復調し購買にもつながっている。夏物バーゲンは、3連休頃が買い時になった印象である。また、話題の菓子や催事等、バーゲン以外にも目新しいトピックを提案すれば客の反応は大きい。
百貨店（営業統括）	来客数の動き	・中元ギフトのピーク月だが、購買者数・売上共に前年割れと厳しい。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・消費税増税の影響で高額商品等の販売が鈍くなっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・消費税増税後の反動減が少し和らいできたが、まだ商品選択に慎重な傾向が強い。
スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品に関しては生鮮の精肉が好調に推移しており、消費税増税後も安定した売上が確保できている。ただ、直営の食料雑貨関係は価格競争により厳しい状況が続いている。特に衣料品は売上が非常に厳しい。
スーパー（総務担当）	それ以外	・食料品は前年を上回って推移しているが、衣料品・住居用品は気温・気候等にかかり影響を受けている。
スーパー（業務担当）	販売量の動き	・中元ギフト、土用丑の日等、季節ものは若干の上昇が見受けられる。盛夏対応のアウトドア用品や飲料は、ほぼ例年通りである。
スーパー（統括者）	販売量の動き	・売上が前年に比べて悪い。また、3か月前と比べると減少傾向にある。
コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・おにぎりや冷たい調理麺などのセールがあるときは、客は一時的に増えるがセール終了後は元に戻る。セールにより、一時的に客が増えたり減ったりはするが、平均すると変わらない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・昨日からスタンプシールの5倍セール実施中だが、来客がほとんどない状態である。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・客数はほとんど変化がない。
衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・セール日程の分散化でまとめ買いは少なくなったが、売上は前年と変わっていない。
衣料品専門店（総務担当）	お客様の様子	・消費税増税の影響によるボリュームゾーンにおける客の買い控えと、今月に限っては、セール時期の分散化による集客力のダウンが原因で非常に状況が悪い。
衣料品専門店（チーフ）	来客数の動き	・前年比で客数の減少はあるが、セールでかなり商品をお買得にし、まとめ買いを促すようにして客数の減少分をカバーしている。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・今年度、新車販売台数が計画に届かない。順調に推移してきた中古車販売も今月は苦戦している。サービス売上や各種手数料などの車両販売以外で何とか黒字確保をしている。
住関連専門店（経営者）	来客数の動き	・来客数、売上共に消費税増税前の水準まで戻っていない。
その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	販売量の動き	・7月は前年度比110%と売上が伸びている。お中元のギフト物の注文が多くあった。
その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	単価の動き	・空港での土産品の販売単価は下がってきている。売上は昨年並みに計上できているが、景気が上向いた実感はない。
その他小売〔ショッピングセンター〕（広報担当）	来客数の動き	・消費税増税の影響で、特に食料品以外の動きが悪い。消費税増税だけでなく、周辺の競争環境の変化や、梅雨明けが昨年より2週間近く遅れたことの影響も大きい。
高級レストラン（専務）	販売量の動き	・夏場の飲食関係は例年落ち込むので、景気の影響は8月を過ぎてみないと分からない。
高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・夜の利用客が変わらず少ない。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・来客数や客単価は、昨年とほとんど変わりが無い。
居酒屋（経営者）	お客様の様子	・知り合いの飲食店経営者に聞いても、どこも厳しいとの意見が多い。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・宿泊・レストランに関しては順調に顧客の取り込みができているが、宴会関係の問い合わせが少ない。
都市型ホテル（販売担当）	来客数の動き	・集客が少なく、売上もあまり良くない。
都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・今年度に入って、MICEを中心に団体及び個人が堅調に伸びている。昨年に比べても動きは良い。
タクシー運転手	お客様の様子	・多様なイベントの開催や観光客の増加で活気はあるものの、消費税増税分を含む物価の上昇で、主婦や年金生活者のタクシー利用は確実に減っている。

	タクシー運転手	お客様の様子	・昼中は暑すぎて外出を控えるためタクシー利用が少ない。夜はビアガーデン等で少し盛り返している。
	タクシー運転手	来客数の動き	・1日を通して良く稼働している。特に会社関係の客の働が良く、一般の客も良い。
	通信会社（企画担当）	お客様の様子	・昨年同様、システム開発の問い合わせや案件の案内が多い傾向にある。
	通信会社（営業担当）	それ以外	・他業種の法人との話のなかで、これと言って業績上昇につながる話題がでない。地域全体の停滞についての話題ばかりが挙がる。
	通信会社（総務局）	販売量の動き	・消費税増税の影響か消費者心理として買い控えの様相を呈しており、新規契約数は鈍化している。
	通信会社（企画担当）	販売量の動き	・季節的な要因を除けば、販売量は低位安定している。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・自社の数字や周りの企業をみても今一つ景気回復していない。アベノミクスが末端まで浸透していない。
	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	来客数の動き	・消費税増税や診療報酬改定に伴う負担増の影響は若干和らいだ感じを受ける。一方で、夏場に入り季節要因の入院等で利用者が減少している。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・宅地分譲は、物件の問い合わせ等反響はあるが成約までに至らない。また、上物の工事請負契約が成約できない状況にあるので、売行きは少し鈍い。
	住宅販売会社（代表）	来客数の動き	・消費税増税後、来客数の減少は予想よりも大きく、例年の半分程度まで減少している。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・暑さのせいもあるだろうが、店頭の売上が落ちてきている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数はあまり変わらないが、来客者が購買に至ることが少ない。すぐに購買行動に繋がらない。客は非常にシビアになっている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・4月の消費税増税後、売上の減少もさほどみられず天候にも恵まれ順調に推移していた。しかし、今月は突然の雷雨や異常に高い気温で客足が鈍っている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・7月に入り、長雨と台風により来客数は減少した。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・暑さにより、前年比で売上が大幅減少している。来客数もかなり少ない。例年、7月に入ると初盆、贈答の注文があるが、今年は少ない。
	百貨店（企画）	販売量の動き	・1997年の消費税増税時の月推移と昨年の参議院選挙の影響を勘案し、7月の売上は前年水準に戻す計画であったが、お中元の出足から苦戦している。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・消費税増税前の駆け込み需要で購入した商品を夏のボーナスで支払うため、心理的に買物をセーブしなければと話す客が多くみられる。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・食料品の売上は、青果物が相場安のため前年比約90%、衣料品は夏物衣料がほとんど動かない状況で、前年比80%と大変苦戦している。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・消費税増税の影響は感じられなくなったが、最寄り品の購買にあまり変化がないのに比べ、買回り品の購買が良くない。最寄り品の購買が中心となると、売上は客数でカバーせざるを得ない。他施設との激烈な競争の影響もあり、客数をどのように維持するかがポイントとなっている。
	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	販売量の動き	・長梅雨の影響もあり、消費マインドが落ちている。バーゲン品の動きも良くない。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・今月は、株主総会等で少し接待が入っていたが、月初め、月末はなかなか客の動きがなく全体的に悪い。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・台風8号の影響による旅行の取り止めが、大きな減収要素となった。新規の予約も昨年ほどの勢いが無い。
	タクシー運転手	来客数の動き	・消費税増税以降、売上は減少傾向にある。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・安くて手軽な市販商品が多数出回っているため、ヘアカラーの来客が少なくなった。
設計事務所（所長）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の時期は良かったが、増税後、売上が減少している。建築の案件が少ない。	
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・季節的な要因かわからないが、日中の人通りが少なすぎる。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・昨年と比べて梅雨明けが2週間近く遅れたこともあって、来客数、販売額共に非常に落ち込んだ。

		一般小売店〔鮮魚〕(店員)	来客数の動き	・この暑さで、客に買物に来てくれというのも酷な気がする。すでに商売と言えない状態である。
		一般小売店〔生花〕(経営者)	販売量の動き	・7月は、母の日のように花を購入するイベントがないので、売上はかなり落ちている。
企業動向関連 (九州)	良く なっている やや良く なっている	○	○	○
		農林水産業(経営者)	受注量や販売量の動き	・鶏肉も卵も順調に相場は推移しており、売行きも順調である。豚流行性下痢(PED)の影響もあるが、冷食、ハムソーセージ向けの加工原料の引き合いは強い。例年にない動向を示している。また、梅雨明けで暑い日が続いた影響もあり、ビール関連商品はスーパー、居酒屋向けとも引き合いが強い。
		家具製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・今月の売上は前年比110%である。内訳は、契約による大量生産型の特別注文家具が同比120%、一般家庭用家具が同比80%程度となっている。
		金属製品製造業(事業統括)	取引先の様子	・建築設備機器の業界では、生産が間に合わない状況が続く業者も多い。
		電気機械器具製造業(経営者)	それ以外	・受注環境に変化はない。
		電気機械器具製造業(取締役)	取引先の様子	・仕事があるのに人手不足で注文に応じられないとの話をよく聞く。
		その他製造業(産業廃物処理業)	取引先の様子	・新機種の製造が少しずつ増えてきている。
		建設業(社員)	競争相手の様子	・当社は民間造成工事の受注で忙しいが、同業者ではまだ受注できていない業者も多い。官公庁の発注も多くなり、3か月前よりは良くなってきた。
		通信業(経理担当)	受注量や販売量の動き	・受注量が拡大し生産体制が追い着かない状況になっている。外注先の協力を得てなんとか需要に対応しており、それが関連各社の業績への貢献になると考えている。
		金融業(営業)	取引先の様子	・設備投資は、以前に比べて増えている。特に太陽光発電への投資がけん引している。
	変わらない	農林水産業(営業)	受注量や販売量の動き	・供給量が上がらず、需要量の一部しかカバーしていない。
		食料品製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・季節的に需要が落ちる時期であるが、受注・生産共に比較的好調であった。
		繊維工業(営業担当)	それ以外	・運賃が1.5倍から3倍にまで上昇している。そのため、利益が全て運賃で相殺されてしまう。中小企業には、一刻も早い対応が迫られる。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・受注量が上がったたり下がったりという状態が続いている。ただし、ムード的には少しずつ上昇に向かっていく。
		一般機械器具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・設備投資関連の事業は、多くの発注企業が予算決めの期間であるため、川下では小康状態となっている。
		輸送業(総務)	受注量や販売量の動き	・消費税増税の反動は和らいでいるものの、景気そのものはあまり良くない。
		輸送業(総務担当)	取引先の様子	・荷主から預かっている荷物が動かない。全般的に荷動きが悪くなっている。
		金融業(従業員)	取引先の様子	・製造業では、消費税増税前の駆け込み需要の反動減等により一部に減産の動きがみられる。一方、所得環境の好転などからスーパーやコンビニなどでは売上が回復傾向にある。公共投資も高水準で推移している。
		金融業(営業担当)	取引先の様子	・建設業を中心に受注環境は良好であるが、ガソリンの高騰や消費税増税により物品販売は苦戦している。
		金融業(調査担当)	取引先の様子	・消費税増税の影響は限定的との話を良く聞く。思ったほど景気の下振れはない。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・セミナーを企画したが集客が悪い。
		経営コンサルタント(社員)	受注価格や販売価格の動き	・高額商品が売れ始めている。
		その他サービス業〔物品リース〕(支社長)	取引先の様子	・建設業の得意先は、人手不足で仕事を選別受注している先が多い。数か月前からこの状態が続いており、当面変わらない様子である。建設機械のリース引き合いも好調を維持している。設備更新などによるエネルギーコストの削減計画が増加している。
		その他サービス業〔設計事務所〕(代表取締役)	競争相手の様子	・市町村のアンケート調査などの発注が多い。公表された予定価格が低い場合、入札時に競争相手の多くが辞退したり、予定価格に近い額で応札している。無理して入札する状況にないようだ。

	やや悪くなっている	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・原材料や下請生地の値上がりに加え、売上も十分でない。商品を値上げしたいが、消費者の見方は厳しく難しい。
		鉄鋼業（経営者）	受注量や販売量の動き	・5月以降、引き合いや新規契約が大きく減少しており、7月に入っても同じ状況が続いている。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・4～5月は消費税増税の反動で悪くなるとは予想していたが、今月はそれ以上に売上が悪い。
	悪くなっている	—	—	—
雇用 関連 (九州)	良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規高卒に関わる求人数が、昨年同時期に比べて2.5倍強となっていることから、景気が上向きであると見受けられる。
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・昨年秋より雇用状況が上向いていたが、中小企業の雇用難等の報道がなされるにつれ、本格的な売り手市場となってきた。
		職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数は昨年4～6月の累計と比較し、今年469件減となっている。建設、医療、介護等はもちろん、製造業、飲食業においても人出不足となっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・消費税増税の影響が懸念されていたが、新規求人数が、前年比4か月連続で増加している。特に卸売・小売業における求人数の増加が顕著である。
	学校〔大学〕（就職支援業務）	求人数の動き	・中小企業からの求人がやや増えてきている。採用意欲は活発な印象がある。	
変わらない	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・婚礼司会の派遣を行っているが、例年繁忙期である10月の案件が少ない。消費税増税前の3月は、例年になく件数が増えたが、その余波がこの秋に影響している様子である。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が前年比120%と好調を維持している。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・正社員雇用が増えていない。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・消費税増税の影響による企業活動の落ち込みは7月ごろから持ち直すと予想していたが、景気回復の実感が乏しく、求人数にも波及していない。	
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・求人数は変わらず横ばいである。携帯電話の販売職の需要は根強い。	
	民間職業紹介機関（支店長）	雇用形態の様子	・派遣労働者の採用よりも、安価なアルバイト、パート社員の採用が増加傾向にある。	
	学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・前年度比の求人増加率は3か月前と比較しても変化はない。IT、建設、ホテル、小売、技術者派遣、介護福祉等の業界については、引き続き求人の引き合いが非常に強い。	
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・注文数が減ってきている。ここしばらくは注文数も順調に伸びていたが、ここにきて落ち着いてきた。	
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・当社調べで、求人取扱件数が前年を下回っている。昨年、過熱気味だった労働集約型の求人が一段落していることが要因である。上場を控えた業界大手を中心に競争が激化し、それに巻き込まれている。	
	悪くなっている	—	—	—